

## 3. 統計的処理

すべてのデータは平均値±標準偏差で表した。年齢群別の差の検討は、独立変数を年齢階級とし、従属変数を各運動機能測定値とした一元分散分析と多重比較 Tukey 法を行った。また、デイス

ビスを利用する75歳以上の軽度要介護者と接骨院に来院する後期高齢者と運動機能の差の検討を独立サンプルのt検定を行った。統計処理にはSPSS13.0を使用し、すべての統計処理においての有意水準は危険率5%未満とした。

表2 基本チェックリスト評価基準 (運動器項目)

1. 階段を手すりの壁をつたわずに昇っていますか	0. はい 1. いいえ
2. 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0. はい 1. いいえ
3. 15分位続けて歩いていますか	0. はい 1. いいえ
4. この1年間に転んだことがありますか	1. はい 0. いいえ
5. 転倒に対する不安は大きいですか	1. はい 0. いいえ

表3 運動機能評価基準

運動機能測定項目	基準値		基準値に該当する場合の配点
	男性	女性	
握力 (kg)	< 29	< 19	2
開眼片足立ち時間 (秒)	< 20	< 10	2
5m 歩行速度 (秒)	≥ 4.4	≥ 5.0	3

表4 接骨院患者の基本チェックリストによる特定高齢者の出現率

(n = 33)

	人数	0点~2点	3点~5点 (該当者)	出現率
75~79歳	14	12	2	14.3%
80~84歳	12	9	3	25.0%
85歳以上	7	1	6	85.7%
80歳~92歳	19	10	9	47.4%

表5 接骨院患者の運動機能評価による特定高齢者の出現率

(n = 33)

	人数	0点~4点	5点~7点 (該当者)	出現率
75~79歳	14	7	1	7.1%
80~84歳	12	8	4	33.3%
85歳以上	7	2	5	71.4%
80歳~92歳	19	10	9	47.4%

表6 接骨院患者の運動器不安定症による特定高齢者の出現率

(n = 33)

	人数	①片足立	②TUG	①または② (該当者)	出現率
75~79歳	14	4	1	5	35.7%
80~84歳	12	8	3	8	66.7%
85歳以上	7	5	5	7	100.0%
80歳~92歳	19	13	8	15	78.9%

表7 接骨院患者の年齢群別運動機能の比較

(n = 33)

歳	①75~79	②80~84	③85~	分散分析	多重比較
人数	14	12	7		
握力 (kg)	22.2 ± 3.8	16.9 ± 3.4	16.1 ± 2.6	8.59**	①<②<③
片足立ち (秒)	34.0 ± 22.1	14.0 ± 11.7	8.3 ± 10.2	4.56*	①, ②<③
TUG (秒)	7.8 ± 2.0	10.0 ± 2.9	13.0 ± 5.4	5.8**	①, ②<③
5m 歩行 (秒)	4.2 ± 1.5	4.6 ± 0.9	6.4 ± 2.8	3.98*	①, ②<③
膝伸展筋力 (kg)	21.3 ± 5.7	18.3 ± 3.5	15.3 ± 3.0	4.57*	①, ②<③

平均±標準偏差、一元分散分析、多重比較検定: Tukey法 \*p < 0.05 \*\*p < 0.01